



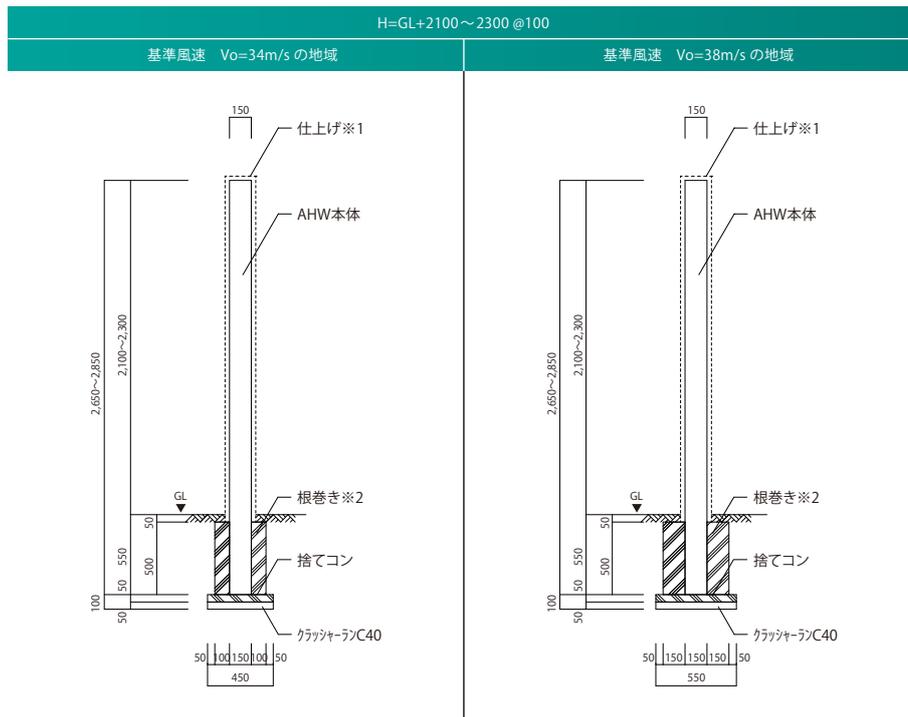
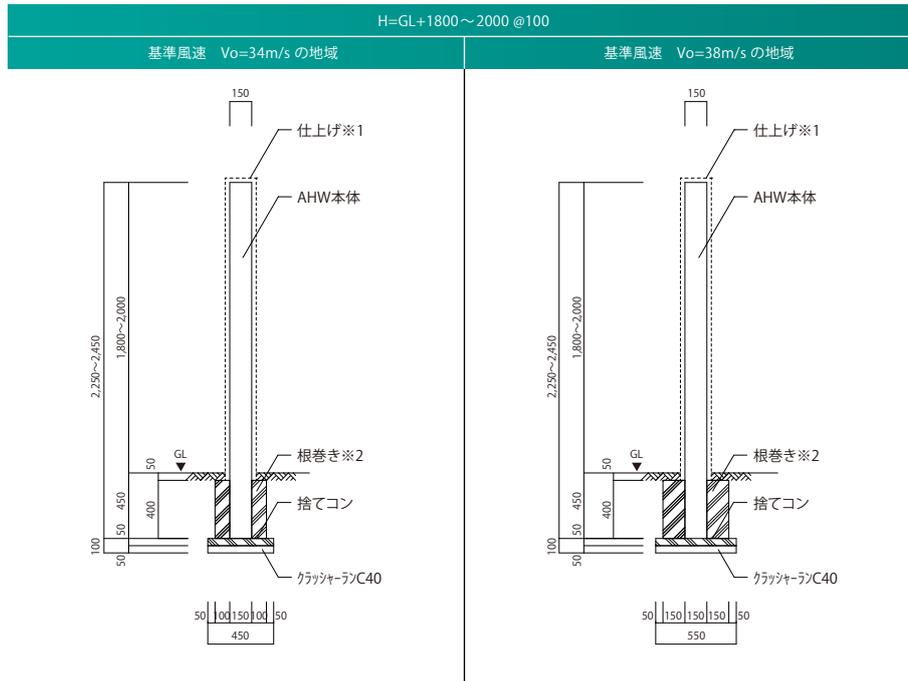
patent products

軽量ユニットパネル連続塀

Airly ハイウォール

施工要領書

標準断面詳細図



特記事項

- ・※1 不燃材で覆わない場合は、下地モルタル(エコアンダーⅢ)が必要。
- ・※1 仕上げ又は下地モルタルは根巻きコンクリートの天端まで施工すること。
- ・※2 コンクリート設計基準強度は18N/mm以上とする。
- ・地盤の長期許容支持力は20kN/m²以上とする。
- ・Airlyハイウォール本体の地上からの高さは100mmピッチとする。
- ・地上からの高さが100mmピッチで納まらない場合は、所定の深さを下回らないよう根入れ深さで調整する。
- ・片側土圧は高さ200mmまで許容する。

Airlyハイウォール 標準断面詳細図

工事中副資材

工事中副資材（製品付属部材）

製品納品時に同梱でお届けいたします。



脚部定規



固定ボルトM12(座金付)



座掘パッキン



連結部パッキン

工事中副資材（現場調達部材）



現場で調達して頂く部材です。
全て、建材店やホームセンターなどで調達できます。

全ての場において必要



2次固定用ボンド
変性シリコン樹脂系弾性接着剤
(推奨品:セメダインPM-165R)



補強繊維テープ
(推奨品:ファイバーテープ)
※座掘パッキン・連結部パッキン部に
使用。



仮固定用資材
※塀が長い場合は、さらにユニット上部の通りを
出すために定木として必要。



調整用プレート(推奨品:ライナープレート)
※捨てコンの不陸調整に使用。

仕上げを不燃材で覆うことができない場合に必要



下地モルタル(指定品:エコアンダーⅢ)
グラスファイバー入り超拘束型ポリマーセメント
※塗装仕上げの下地として必要。



左官用埋め込み定木
※下地モルタル施工に必須。
(厚み管理・ピン角・角部クラック対策)

基礎工事、建込み

施工の注意点

1. 掘削深さはパネル H1,800 ~ 2,000mm (GL-450)、2,100 ~ 2,300mm (GL-550) で異なるので注意する。
2. 捨てコンのレベルは水平で不陸がないように施工する。(下図 02)

01

掘削地業



掘削深さはパネル高さにより異なるので注意する。
(詳細図及び上記解説参照)
砕石地業は十分に転圧すること。

04

パネル運搬



パネルは両端を持って運ぶ。
パネル重量が 40 ~ 60kg/枚あるため、必ず 2 人以上で作業を行うこと。

02

捨てコン



捨てコン打設面は平滑に仕上げること。
(パネルの高さ調整はある程度は可能だが、調整の手間を最小限に抑えるため)

05

コーナーパネル



コーナーがある場合は、最初にコーナーを建込む。
(位置合わせの作業が容易になるため)

03

位置調整金具



パネル位置を墨出し後、脚部定規を設置する。
3.5mmφのビットで穿孔し、4mm のノーブラビスで固定する。金具底面は必ずパネルの外側とする。

06

パネル建込み平部

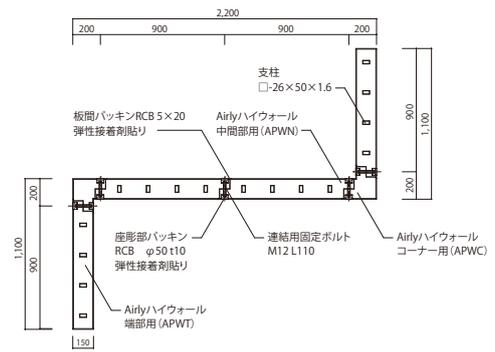


パネルを建込む。下端を墨出し線と脚部定規に合わせる。
捨てコン面にて作業員 1 名がパネル下部を支持し、作業員 1 名がパネル上部を鉛直に起こす。

建込み、パネル固定

施工の注意点

1. パネルは建て込んだ後に倒れないように仮固定する。(下図 07)
2. パネルはボルトで仮固定し、位置調整後本締めする。(下図 08)
3. パネルの倒れと高さの調整は、全てのパネルを建て込んだ後に行う。(下図 08～10)
4. パネル面に水準器を当てて鉛直になるように調整し、栈木等で位置を固定する。(下図 09)
5. パネルの高さ方向は、パネルと捨てコンの間にフィラーを適宜挿入して調整する。(下図 10)
6. パネル間にはコーキングガンで片面ずつ接着剤を打設する。(下図 12)



07

パネル仮止め



パネルを栈木などで倒れないように固定する。

パネルが倒れないように、必要に応じて栈木などで固定する。パネルに釘止めは可能だが、下地施工の負荷を考慮して大きな跡にならないようにする。栈木はご用意ください。

10

パネル調整



フィラーを挿入してパネルの高さを調整する。

パネルの高さ調整はパネルと土間コンの間にフィラー（ライナープレート等）を挿入する。

08

パネル間ボルト仮止め



壁同士は、あらかじめ設けた穴に固定ボルトで仮固定する。

11

ボルト本締め



締めすぎないように注意する

パネルの建入れが調整できたら、パネル間のボルトを本締めする。

09

建入れ確認



パネル面に水準器を当てて鉛直に建て込まれていることを確認する。また、パネルの通りも揃っていることを確認する。

12

パネル間接着剤充填



パネル間に接着剤を充填する。コーキングガンで片面ずつ打設する。

パッキン設置・根巻きコンクリート打設

施工の注意点

1. パネル間に接着剤を打設後、パネルと同素材の連結部パッキンを設置する。(下図 13,14)
2. ボルト穴にも同様に接着剤を充填した後にパッキンを設置する。(下図 15,16)
3. 根巻コンクリート打設時は、片側だけにまとめてコンクリートを流し込むとパネルが傾く場合があるので注意する。(下図 17)
4. 下地処理としてパネル段差部、座堀パッキン充填部を No.60 のペーパーで擦って整える。(下図 18)

13

パネル間パッキン設置



パネル間に接着剤を打設後、パネルと同素材の連結部パッキンを設置する。

16

ボルト穴パッキン設置



接着剤充填後、パネル間と同様に同素材でパッキングしパネル表面と段差がないようにする。

14

パネル間パッキン設置



当て木を当ててゴムハンマー等で軽く叩きながらパネル表面と段差がないように設置する。

17

根巻コンクリート打設



型枠を組み、根巻コンクリートを打設する。寝巻きの両側にバランスよくコンクリートを流し込み、打設後5日間は養生期間として型枠を存置させる。

15

ボルト穴接着剤充填



パネル間を接合しているボルト周囲にも接着剤を充填する。接着剤がボルトの緩み止めにもなる。

18

下地調整



サンドペーパーを角材等に巻いて擦る。

下地モルタル（エコアンダーⅢ）を施工する前に、パネルの段差やパッキン部分を No.60 のペーパーで擦って調整する。

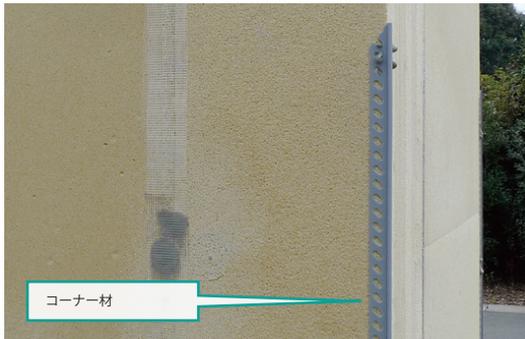
仕上げ工事

施工の注意点

1. パネル接合部のクラック発生防止の為、パネル間、ボルト穴周辺に補強繊維テープ（推奨品：ファイバーテープ）を貼る。（下図 19,20,21,22）
2. パネルの角部には必ず左官用埋め込み定木（コーナー材）を使用する。エッジをシャープに出すため吹付仕上げ時には必ず設置する。（下図 19）
3. パネル表面は気泡が多く、下地が入り込むため左官材料は余裕をもって用意する。（下図 21）
4. タイルは基材直又は下地モルタルに弾性接着剤で設置する。（下図 24）
5. **下地モルタルはエコアンダーⅢ（フッコー社製）を使用する。** ※メーカー推奨値 厚5mmの場合、4㎡/袋
6. **仕上げ塗料に際しては、必ず弾性系塗料を使用すること。**
7. 長さ5mを超える連続塼の場合、3m毎を目安にパネル間目地を活用して伸縮目地を設ける。 ※別途資料あり（お問い合わせください）

19

コーナー材設置

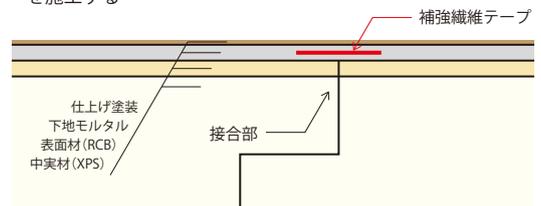


角部には必ず左官用埋め込み定木（コーナー材）を設置する。

22

補強繊維テープ貼

クラック抑制のため、接合部とボルト穴パッキン部には下地モルタルと一緒に補強繊維テープ（ファイバーテープ）を施工する

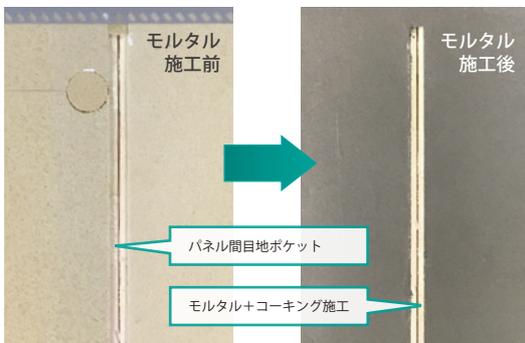


Airly ハイウォール断面

ボルト穴のパッキン材の上にも補強繊維テープを貼る。補強繊維テープ（ファイバーテープ）の施工後、その上に下地モルタルを重ねて施工する。

20

伸縮目地



長さ5mを超える場合は、@3,000を目安に伸縮目地を設ける。施工方法は別途資料を参照すること。

23

下地モルタル



表面を仕上げ下地モルタルの施工を完了する。不燃材（モルタルやタイル等）で覆うこと。乾燥・養生後塗装仕上げをする。（弾性系塗料を使用）

21

下地モルタル



角部には必ず左官用埋め込み定木（コーナー材）を設置する。まずは、厚み2mm程度下地モルタルを塗布する。下地モルタルは根巻コンクリート天端まで施工すること。

24

タイル張



タイルは基材直又は下地モルタル上に弾性接着剤で施工する。

旭コンステック株式会社

本 社 〒490-1296 愛知県あま市乙之子八反田12

中部事業部 〒490-1296 愛知県あま市乙之子八反田12

東 京 支 店 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-18 日本橋富沢町スクエア 5階

tel 052-445-4130 fax 052-445-2542

tel 052-445-2022 fax 052-445-2023

tel 03-3639-3340 fax 03-3639-3343

www.product.asachunet.co.jp